



令和5年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業
実践報告

「できること」のを見つけ方



社会福祉法人 幸星会 特別養護老人ホーム 次郎丸の里

次郎丸の里施設概要

入所者定員	54名
ショートステイ	6名
介護職員	28名
男性	13名
女性	15名
事務職	7名
リハ職	2名
看護職	4名
その他	1名



施設理念

私たちは、ご高齢の方々がその人らしく生活できるよう、心をつくして支援いたします。

ノーリフティングケア目的

次郎丸の里の理念にそって職員が生き生き働ける職場環境を構築する

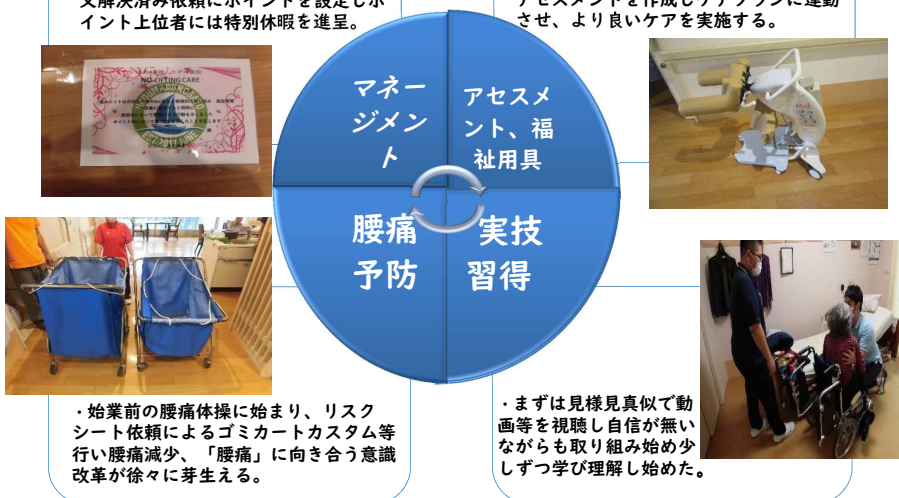
職員個々が生き活きと笑顔で働ける職場環境を目指して

次郎丸の里ノーリフティングケア1年目の流れ

1～2年目の実施計画

・リスクシートに書かれた依頼を解決
又解決済み依頼にポイントを設定しポ
イント上位者には特別休暇を進呈。

・利用者様に適した ケア、福祉用具の
アセスメントを作成しケアプランに連動
させ、より良いケアを実施する。



2年目を振り返り

「目的」

次郎丸の里の理念に沿って職員が生き活きと働ける職場環境を構築する

2年目活動中にノーリフティングケア事業部が思った事！

- ・1年目の計画が進まなかったのは全職員間でのコミュニケーション不足が問題だと気付きました。
- ・スタッフに伝える時に成功談をはなすのではなく「計画が遅れている」「実技研修」が思うように進まない」等失敗談を語ることで現状の課題に気付いてもらえるように2年目は進めていきました。

計画を進める為にはコミュニケーションが非常に大事です。



全員をやる気にさせることの難しさ

1つの理念、方針、目的に全員が共感し、熱っぽく取り組むというのはそもそも難しい！

方針や目標を掲げて、それに向けて一体となって取り組もうというときに、なかなか「やる気」にならない人がいます。前述のように、伝え方を工夫しても伝わりません ☹

「何とか前向きになってくれないか」と思う気持ちですが ☹

そこで…

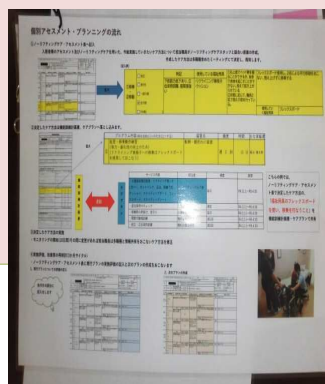


今年度のノーリフティングケア委員会はこう考えてみました。

次にマニュアルの見直し

みなさんの職場でマニュアルが奥底にしまわれたりしてませんか？ノーリフティングケア委員会は新しいマニュアルを作成しました。

- ①写真や図、表が豊富
- ②文章量が少ない
- ③フローチャート形式でわかりやすい
- ④ポイントが明確



会話の大切さ

- 方針、目標に共感させること、それを実施する目的、意義をしっかりと理解して頂くことが大事だということ。
- 振り返り反省した事を中断せず、共有し進める。
- 目標達成のために職員が「ノーリフティングケア」を理解し、それが実施できているか、随時声掛けしコミュニケーションを図る。



結果にコミットし特別休暇をGET!

ノーリフティングケアの活動に大きく貢献した職員には「成果が上がった」と感じて貰わなければなりません。

それがノーリフティングケア特別休暇です。

まず評価結果から確実にクリアーできる「小さな目標」を設定。コツコツやれば必ず職員全員、休暇を修得できる事を考案しました。一緒に頑張る仲間がいると励みになる仲間づくりができる仕掛けにしました。



成功体験をよろこぶイベント

「ポイントカード」「表彰」等、中間地点での成果、「小さな目標」をクリアしたことを賞賛するイベントを行い職員のモチベーションアップにつなげ成功しました。

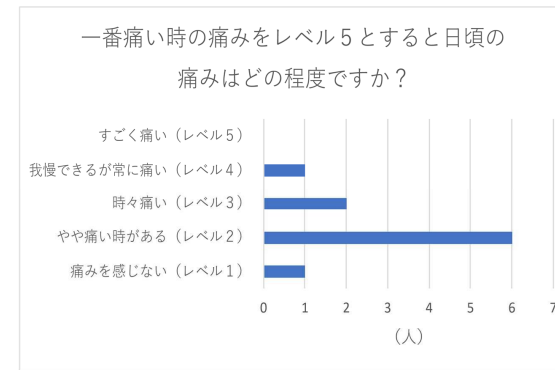
次はより、高いハードルを設定しました。

1年目より大きく施設全体にノーリフティングケアの意義からはじまり実技ともに浸透していきました。

実はここが重要なポイントでした。まわりのスタッフはノーリフティングケア事業部の動きをしっかりと見えています。導入で失敗すると「どうせうまくいかない」とレッテルを貼られてしまいます。絶対に成功させるという意気込みで計画が遅れても中断せず実行しました。



次郎丸の里腰痛調査結果

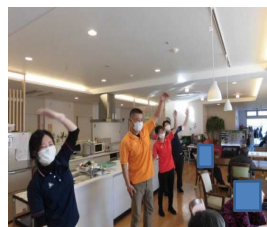


今年度は腰痛度具合のシートを使い重度、中度、軽度の痛み具合を細分化。上位3名の中等度者に対し、面談を行い、対応策を検討話し合い。

次郎丸の里 腰痛対策

- 腰痛予備軍対策の必要性を再確認し、12月腰痛細分化シートを使い施設全体の腰痛者は減少し重度者は0人になりました。
- 中等度者は依然として3名、軽度者7名おり今後も施設全体で改善に向けて取り組んでいます。

- 施設全体で業務前・会議前に腰痛体操の実施
- 15時には館内放送でラジオ体操の実施
- 今年度、腰痛軽減はベットの高さ調整、トランスファーボードの浸透が大きく考えられます



マネジメント研修中
15時にラジオ体操
少しずつ浸透し6割の職員は実施しています

腰痛レベル分け	
レベル1 (痛みを感じない)	1名
レベル2 (やや痛い時がある)	6名
レベル3 (時々痛い)	2名
レベル4 (我慢できるが常に痛い)	1名
レベル5 (すごく痛い)	0名

2年目まとめ

1年目、やらないといけなとの認識でスタートをしました。この状況を全職員が同じ方向に向かって進めるため、コア職員は1年間失敗しながらもPDCAサイクルでまわしてきました。薄い知識でボード移乗に取り組み、褥瘡者を悪化させてしまうなどの失敗もありました。しかし次郎丸の里の求人面接ではノーリフティングケアの事を事前にホームページで知り、活動に参加したいといわれる声も多く聞かれ、同じ志の職員も増えました。当施設は十分な職員の配置まではできておりませんが、少ないながらも派遣社員を雇用せず、全職員が同じ方向性に向けて助け合いの精神で協力しています。いくつになっても働き続けられる職場環境を目指し頑張っております。ノーリフティングケアの活動に出会え本当に良かったと感じております。2年目で「まだまだ」と実感しています。メンバー入れ替えが多かったですが残り少ない2年目を楽しみながら、よりよい3年目に向けがんばっていきます。

